



内子座 藝於遊



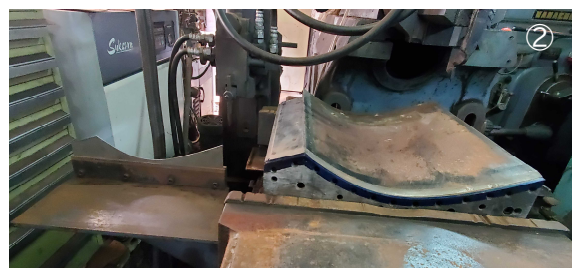
棧瓦用金型製作

令和 8 年 8 月 27 日、棧瓦用の金型製作を取材させていただきました。内子座保存修理工事では、使える瓦は焼き直しをして再使用しますが、それでも一部は新たに製作する必要があります、多くの種類がある瓦の中でも、一番の基本の形といえる棧瓦の金型製作が始まるということで、撮影に出かけました。場所は今治市菊間町です。

金型製作にあたり、内子座で使用されていた瓦と同じ形の瓦が製作できるよう、瓦のカーブ曲線を再現した鉄板プレートを作成されていて、この日はその確認から始まりました。内子座の棧瓦は、一般的な棧瓦よりもカーブの角度が深いとのこと。これから削っていく金型のもとに合わせながら、その角度を確認するなどしていました（写真①）。その後、鉄板プレートや金型のもとを昭和 49 年製の機械にセッティングし（写真②）、削りの作業が始まりました。写真②において、左側にカーブ曲線が再現された鉄板プレートが設置され、その角度を読み取って、右に設置した金型のもとが削られていきます。瓦の弓なりと山なりの両面を削るには 1 日半から 2 日ほどかかるそうです。



棧瓦用金型製作の様子(8 月 27 日撮影)



内子座防災訓練とスタッフ勉強会

令和 8 年 8 月 25 日、内子座で防災訓練を行いました。今回も内子座工事現場の方々にご参加いただくとともに、火事の発災現場を工事現場に設定させていただき、訓練を行いました。実際の避難はどこにするのが良いのか、など、避難訓練後の質疑なども活発に行われました。その後、水消火器を使用しての消火訓練も実施しました（写真右）。

訓練終了後は場所を楽屋稽古場へ移動し、壁補強に関する内子座スタッフ勉強会を行いました。7 月 12 日にポリカーボネート板の工場を視察した折、この板の開発者の元を訪ね、開発に至る経緯や実験内容などについて勉強させていただいていたのですが、その内容を皆で共有し、内子座保存修理工事への理解を深めました。

